

採用企画「イチャリパチョーデー ～出会えばみな兄弟～」

(代表者 宜野座 さやか)

企画概要

現在、少子化が進み、子供達にとって同年代以外の子供達との交流が不足していると考えた私たちは、子供達同士が交流できる場を提供し、学年の違う子供達がふれあうことによって、コミュニケーション能力が向上することを目指しました。

また、私たち自身も子供達と交流することによって、現在の子供達の考え方を知りたいと思います。

活動状況

当初、私たちは小学生に自分たちの郷土料理を教え、作りながらコミュニケーションをはかり、仲良くなるうという考えでした。そこで、私たちの企画を小学校の先生に理解していただくため何度か話をしたところ、子供が怪我をしたときの責任問題などの理由から受け入れてもらえませんでした。私たちの企画は白紙にもどり、「私たちに足りないものは何か？」と話し合った結果、経験不足や信用のなさではないかと考えました。

そこで、まず、何かのイベントに参加させてもらい、そこから今後に向けて力を吸収していくことにしました。

最初に、柘野少年補導委員会のキャンプ(7月23日・24日)に参加させてもらいました。参加したのは23日だけでしたが、児童65名、少年補導委員31名の大きなイベントでした。

次に、小学校の保護者でつくられている「おやじの会」主催の川遊びに参加させてもらいました。午前中に小学校の清掃の手伝いをし、午後からは鴨川の上流で水中生物を観察したり、泳いでいる小学生の補助をしました。

最近の活動では、11月19日におやじの会主催の山遊びに参加させてもらい、船山の頂上目指して山登りをしました。その途中で見つけた木の実や落ち葉、枯れ枝などで思い思いのものを創作しました。

今後の予定

今までの活動は、全てボランティアとして受身の形だったので、私たちが主体となって企画したものを成功させたいです。来年の1月～2月の間に遠足を実施したいと考えています。この計画もまだ企画段階なので、実施できるかどうかわかりませんが、私たちがこの短い期間で得た経験を基にして必ず成功させたいです。

感想

私たちが当初目的としていたことが、結局、実現することが大変難しい状況になりました。小学校に私たちの思いが伝わらなかったり、厳しいことを言われたりもして何度もあきらめようかと思ったのですが、支えてくださった学生部の方々や寮のスタッフの方には本当に感謝しています。

また、ボランティアとして受け入れてくださった柘野小学校や少年補導委員会やおやじの会にも大変お世話になりました。私たちの計画はまだ終わっていません。せっかくサギタリウスチャレンジとしてチャレンジさせていただく機会を与えていただいたので決して悔いの残らない結果にしたいと思います。